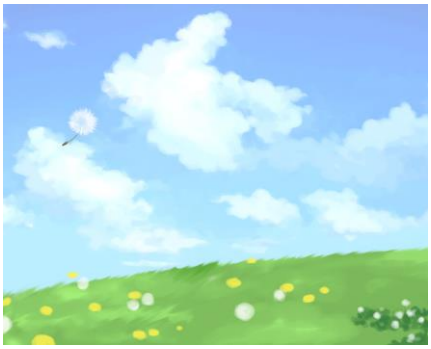
平成２８年５月１０日号（第１６１回）

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。



５月の季語に「薫風（くんぷう）」という言葉があります。新緑の間を吹きぬける気持ちの良い風のことです。年度の始まりから１ヶ月、５月病などと言われる時期ですが、野山に出て風を感じれば気分が明るくなるのではないでしょうか。“五月の朝の新緑と薫風は私の生活を貴族にする”日本近代詩の父、萩原朔太郎はこの季節特有の豊かな気分をこんな風に表しています。

今回の阿伎留通信は、

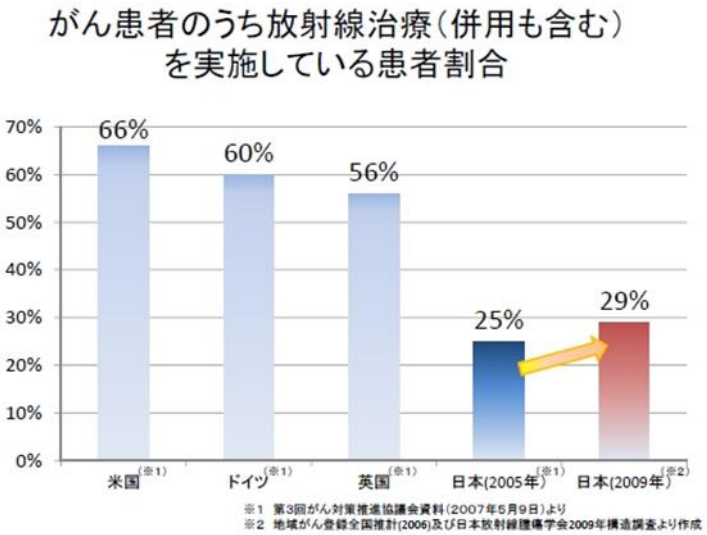
―「放射線科・放射線治療部門のご紹介」―

をテーマに放射線科　田村 晃一主任よりお話しさせて頂きます。

はじめに

放射線治療とは高いエネルギーの放射線を用いて、悪性腫瘍を治療する方法です。現在、悪性腫瘍の治療は、①手術 ②化学療法 ③放射線療法の３つが柱となっています。もちろん放射線治療単独でも治療を行いますが、手術前や手術後に行う場合や化学療法と併用して行う事もあります。

日本での放射線治療利用率は急速に増加していますが、日本では 29%にとどまっています。しかしアメリカでは 66%、ドイツでは 60%、イギリスでは 56%と広く利用されています。



放射線治療の対象

基本的には悪性腫瘍のみですが、小児から高齢者まで、頭部から骨盤、四肢まで、根治治療から緩和治療までとその適応は広範にわたっています。

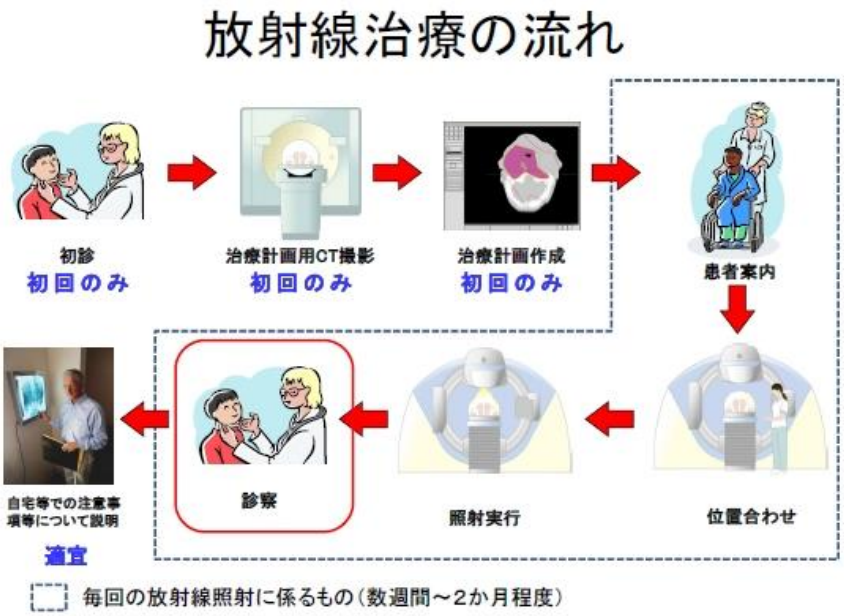
当施設では、放射線治療装置（リニアック）を用いて、体の外から放射線を当てる治療（体外照射）を行っています。

・根治照射：悪性腫瘍を根絶する治療
・緩和照射：症状（痛み等）の緩和を目指す治療
・予防照射：手術後の再発を防ぐための治療

放射線治療の流れ

放射線治療を受けるには、各診療科の先生から紹介を受ける必要があります。放射線治療をご希望の方は、まずは診療科の先生とご相談の上、放射線治療の予約をお取りください。

① 放射線治療初診
↓
② 治療計画のためのＣＴ撮影
↓
③ 治療計画
↓
④ 放射線治療開始
↓
⑤ 診察



放射線治療に関わるスタッフ

・放射線腫瘍医
・診療放射線技師
・看護師

以上のスタッフが、患者様の状態を把握・共有しながら治療を行っていきます。

放射線治療の期間

放射線治療の期間は、患者様の病気・症状によって異なります。放射線治療は外来通院で治療可能ですが、治療期間は長くなります。

前立腺がん根治照射の場合：　３２～３８回
乳がん温存術後照射の場合：　２５～３０回

当施設では、患者様の都合のつく時間で治療を行っていますので、無理なく治療が行えます。

阿伎留通信については、第１回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(http://www.akiru-med.jp)

公立阿伎留医療センター　患者サービス改善委員会　発刊